

はざわの魅力を伝えよう！6の2フォトグラファー 第6学年2組 永松 智世

1 単元について

活動に向かう子どもの思いや願い

小学校生活最後のはざわの学習だから、「もっと地域のことを知って、伝えていく力を伸ばしたい。」という思いから学習がスタートした。

宣伝するための材がたくさんある中で、はざわの街の良さを地域に住んでいる人だけでなく、遠くに住んでいる人にも知ってもらいたいという思いから、「写真」を材に取り組むことになった。

クラスで写真撮影をしながら、まち探検をするうちに、この写真の撮り方でいいのか、羽沢の良さが伝えられているかななどの疑問が出始め、写真のプロの方に教えてもらいながら、より良い写真を撮りたいと意欲が高まっている。

材と『自分づくり科』で育てたい力

写真は、児童にとってとても身近な材であり、現在は1人1台iPadが支給されているため、気軽に撮影できる良さがある。また、現PTA会長がプロのカメラマンであるため、より身近に感じられる。写真は、切り取られた一部分だけで感じたことを表現するため、自分の思いを明確に持つておくことが大切である。

写真撮影を通して、街の魅力について見つめ直し、友達と協力して取材し、自分が伝えたい良さが伝わるものになるまで試行錯誤をしながら粘り強く取り組めるようにしたい。また、取材するためにまちの人とたくさん関わり、自分の役割や自分らしい生き方に気付かせたい。

単元目標

羽沢の地域の良さを、写真を用いて地域の外へ伝える活動を通して、羽沢のまちには自然や景観、人とのふれあいなどの様々な魅力があることを理解し、その魅力を伝えるための方法を考えるとともに、まちの特色に気づき、このまちを大切にしたいという思いをもつとともに、自分にできることを実行しようとする。

2 単元で育成を目指す資質・能力

探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
写真を通して伝える羽沢の魅力、まちを支える人の思い	○羽沢の街は、畑などの自然だけでなく、史跡や商業施設、公共施設などがあり、それらに従事する方々によって、支えられていることが分かる。 ○羽沢のまちを支えている人々は、思いや願いをもち、その実現に向けて、努力し続けていることが分かる。 ○写真撮影に携わる人は、様々な工夫を行い、被写体に対しての思いをもって撮影していることに気付く。	○羽沢のまちを地域の外の人に知ってほしいという願いの実現に向けて、方法やそのための見通しをもつ。 ○羽沢のまちの魅力を調べたり、フォトスタジオの方から写真撮影の仕方を教わったりする。 ○目的を大切に得た情報を比較したり関連付けしたりして、自分の考えをもつ。 ○自分が伝えたい街の魅力を写真で表現する。	○自分が羽沢のまちの一員であることを自覚し、まちのためにできることを実行しようとする。 ○地域の方やフォトスタジオの方に積極的に関わり、アドバイスを生かして自分の活動をよりよいものにしようとする。 ○目的に合わせた情報発信方法を考え、粘り強く情報収集したり、試行錯誤しながら発信方法を考えたりしている。
自分づくり科	Aエ	Aウ Aア Bイ	Bア Bウ Bエ

3 単元構想(70時間+国語15時間)

1 はざわの街の魅力が地域の人にも地域の外の人にも伝わる材を考えよう (5時間)

- これまでの学びを振り返り、今年身に付けたい力を話し合う。
- 目的と発信したい相手を確認し、どの方法で伝えると良いかを話し合う。

・羽沢にはたくさん良いところがあるから、地域の人にも、見てもらいたいけど、地域の外の人に伝えていきたい。そのためには、羽沢横浜国大駅で何かできないかな。
・動画や写真、パネルシアターなど発信する方法はたくさんあるな。でも、地域の外の人に見てもらうには、パネルシアターだと難しいね。一目でわかるものがないから、写真が一番だと思う。

《手立て》
自分たちの目的や伝えたい相手を明確にすることで、方法を選択できるようにする。写真に携わる人と出会わせる。

2 伝えたい羽沢の魅力を調べよう (20時間+国語5時間) ※自分づくり科4時間

- はざわの街の様々な方面(畑、店、団地、住宅街、公共施設)などに行き、その場所の良さを見付ける。
- 地域の人にインタビューし、その場所の歴史や町の人の思いを知る。

・住宅街にも自然があったから、やっぱり羽沢の良さと言ったら畑・キャベツ・自然!!
でも、神社や祠、史跡が多いことに気付いた。
・羽沢の人は優しいということをインタビューで聞いたから人を撮りたいけど、どんな風に撮ると伝わるかな。
・街に出るとたくさんの人にお世話になっていることに気付いた。

《手立て》
地域の人に話を聞くきっかけとして、まち探検中に出会わせる場面を作る。また、史跡など、自然以外の良さにも気付けるような道順を設定する。

3 はざわの魅力を写真に撮ろう (25時間) ※自分づくり科4時間

- 羽沢の魅力が伝わる写真展にするには、どのような場所・もの・人を撮影するか決める。
- より魅力が伝わる写真にするには、どのような撮り方をすると良いかを知る。
- 写真コンテストに応募したり、校内写真展を開いたりして、どのような写真が好まれるのかを知る。

・斜めに撮るとかっこいいと思ったけど、相手が気持ち悪くなることもあると知ってびっくり!
・写真を撮るには、相手に伝わりやすいことが大事だと分かった。
・自分たちの撮った写真を合わせたら、自然が多かったから、人や史跡も撮ったほうがいいな。分担しよう!
・撮る人が撮るものや人を好きになると上手に撮れると分かったから、好きという気持ちで撮ろう。

国語
「聞いて、考えを深めよう」

《手立て》
写真を仕事としている方と出会い、アドバイスを頂き、より良い写真について考えるとともに、その仕事への思いなども知る。

4 はざわの魅力、写真展示会を開こう (20時間+国語5時間) ※自分づくり科2時間※本小単元

- 展示場所を考え、許可を取る。
- 展示方法(写真の大きさ、枠、用紙、題名や解説文)を考える。
- 展示した時の感想をもらうためのアンケートを作る。
- 羽沢内外の公共施設で写真展を開く。
- 展示会を開いた感想を基に、自分たちの活動を振り返り、自分自身の成長を振り返る。

・どんな大きさで展示したら伝わるかな。みんなでそろえなくてもいいかも。
・羽沢の良さを羽沢の街の外の人に伝えるなら、国大駅や新横浜駅など様々な場所で展示したい。
・羽沢の魅力がみんなにも伝わったかな。アンケートをとってみよう。
・題名があるとより伝えたいことが分かりやすくなると思う。
・たくさんの人に羽沢の良さが伝わってうれしい。
・たくさん調べたから、自分たちも今まで知らなかった羽沢の良さに気付けた。羽沢は自然と史跡が多くて、人の優しさがあふれた街だった。大切にしていきたいな。

国語
「鳥獣戯画を読む」

《手立て》
写真の分析を行い、より良い展示方法を考えられるようにする。アンケートを撮ることで、達成感を得られるようにする。また、自分たちの活動をふり返ることができるように、掲示する。

4 小単元構想

4 はざわの魅力、写真展示会を開こう (20時間+国語5時間) ※自分づくり科2時間

羽沢の魅力が伝わる写真展に必要なことは何だろう? ※本時

○写真展を開くために必要なことを考え、見通しをもつ。

- ・まずは、どこで写真展を開くかを考えて、許可をとろう。地域の人にも見てもらいたいけど、羽沢に住んでない人にも知ってもらいたい。
- ・学校で、写真展を開くときに、1部屋をどのように使うかを考えないといけないね。修学旅行で言った美術館や博物館の展示の仕方を参考にしよう。壁だけじゃなくて、真ん中にも展示したいな。
- ・Mさんが、写真に説明があるといいつて言っていたから、説明の文章も考えたい。
- ・写真の大きさは、みんな同じでいいかな?
- ・写真展を見に来てもらうためのポスターや、見に来てくれた人に感想を聞くためのアンケートも作ろう。
- ・写真展の名前も決めないといけないね。羽沢の魅力がたくさん詰まった名前ってなんだろう。

■校内で、プレ写真展を開く。

より良い写真展にするために、どのような改善をすればよいだろうか?

○アンケートやMさんの感想を基に、プレ写真展を通してはざわの魅力が伝わったか考える。

- ・アンケートに、羽沢の魅力がはかにも書かれていたよ。本番の展示に向けて、もう少し写真を足したいな。
- ・説明はあんまり読んでいる人がいなかったから、短くてより伝わる内容にしたいな。
- ・もっとたくさんの人に見てもらうために宣伝しよう。

■スポーツ会館とリビオタワーで、写真展を開く。

○それぞれの展示スペースに合わせた工夫を考える。

- ・学校よりも広いスペースがあるから、写真を大きくしよう。
- ・写真だけでなく、飾りつけがあると目立つかもしれない。

羽沢の魅力が伝わる写真展になっただろうか?

○写真展を振り返り、自分たちの成長に気付く。

- ・自分たちも含めて、羽沢は畑が多いイメージを持っている人が多かったけど、史跡や人とのつながりの良さにも気付いてもらえてうれしかったし、羽沢はいいところがたくさんあるなって思えた。
- ・写真展を開くために、羽沢のまちをたくさん歩いたから、いいところがたくさんあって、やっぱり羽沢が好きだなと感じた。

【自分づくり科】

【Bア目標への情熱】

羽沢の魅力を伝える写真展を開くという課題に対して、達成したときの思いなどを見通し、自分たちの力でやり遂げようとする思いをもち、行動する。

【手立て】

実際に校内の一室に展示してみ、より良くするための工夫について考えられるようにする。また、写真集を教室に置き、参考にできるようにする。

【Bエ知的謙虚さ Bウ樂觀性】

「はざわの魅力が伝わったか」という目標に対して、アンケートやMさんのアドバイスを受け、より良い展示にするために今までの展示方法を前向きに改善しようとする。

【手立て】

プレ写真展を行ったときにアンケートをとったり、Mさんに見ていただいて感想やアドバイスをもらったりして、自分たちの写真展を振り返ることができるようにする。本番を意識することで、他者の意見を素直に受け入れ、自分の考えを柔軟に変えていけるようにする。

5 本時

(1) 本時目標

はぎわの地域の良さを伝える写真展の題について話し合う活動を通して、それぞれの写真から伝えたい内容が表せているか考えるとともに、思いを表現するには言葉を工夫する必要があることに気づき、地域の良さがより表せる題を考えている。

(2) 本時の流れ (7 / 25)

前時	
○学習活動 ・予想される子どもの考え	・教師の支援 ★評価
○本時のめあてと学習の流れを確認する。	
はぎわの魅力が伝わる題を考えよう。	
○自分の写真の題をもらった周囲の人が見た写真から伝わる羽沢の良さや題についてのアドバイスを基に考え直す。	・手元に友達からもらったメッセージと自分の写真、題を置いておき、見返したり、直接書き込んだりできるようにする。
・写真だけでも羽沢の良さはかなり伝わったことがわかった。写真にはない情報を書き加えよう。 ・写真には、川だけでなく花も写っているから、写真をよく見て写真に合った言葉を加えたい。 ・テーマに沿ったものを題に入れた方が良いと分かった。 ・「どのように」など、様子を表す言葉があるともっと伝わると思った。 ・優しいことが伝えたいけど、この写真では優しさは伝わらないことが分かった。どんな言葉をいれたらいいかな。 ・グループで同じような題になるから、どんな工夫をしたらいいかな。	
○グループで話し合っ、悩んだことを全体で共有し、より良い題を考える。	みんなで、悩んでいる題と写真が見られるように前に掲示し、黒板にはみんなの考えを記録していく。 ★羽沢の魅力について、写真から伝わる良さと地域の方から得た情報、伝えたい魅力と関連付けしながら、自分の思いを題に表す。(発言・ふりかえり) 【思考・判断・表現】
・写真で優しいことが伝わらないなら、無理に入れないほうがいいと思う。それよりも写真から伝わる一生懸命さを加えた方がいい。 ・「キャベツ」ではなくて、キャベツの良さを伝えないといけないと思うから、この写真だと元気に育っている様子が題になるといいな。 ・グループで同じ題になってしまうなら、2つの写真をつなげて一つの題にしたらどうかな。 ・写真に伝わらないことを全部題に入れたら、変な題になってしまうから、説明に入れたらいいと思う。 ・岐部さんの優しさを伝えるには、説明は必要だと思う。どんな時に助けてくれるかも書きたい。 ・生き物が生き生きと過ごせている様子をどんな言葉にしたらいいかな。 ・古くから残っていることは、写真だけでは伝わらないから、言葉に残したいな。	
○ふりかえりをする。	
次時 写真に加える説明書きをどのようなものにするか話し合う。	

② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立 羽沢小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
14	羽沢小学校学区内 （各グループで分かれて）	羽沢のまちの魅力だと感じる場所に行き、魅力が伝わる写真を撮影する。また、そこで出会った地域の方に、羽沢のまちの魅力についてインタビューし、まちについて知る。		地域の方々が子どもたちの知らない魅力についても教えてくださった。写真撮影にも快く協力してくださった。
3	羽沢小学校	撮影した写真を見てもらい、魅力が伝わる写真の撮り方を教えていただいた。校庭に出て、実際に写真を撮りながら、アドバイスをもらった。		フォトスタジオを経営する地域の方に、3度来ていただき、写真を見ながらアドバイスをもらった。徐々に、上達している様子をほめていただいた。
3	横浜市スポーツ会館	羽沢のまちの中で展示できる場所として、スポーツ会館に協力していただいた。館長さんに手伝っていただきながら、児童たちが展示を行い、スポーツ会館を利用する方に見てもらえた。		アンケート結果から、見てくださった地域の方々も、自分たちの知らなかったまちの魅力を再発見できた、まちを歩いてみたいと感想を頂いた。
6	横浜国立大学 地域連携施設 YNU BASE HAZAWA	羽沢横浜国大駅に隣接する施設で写真展を行った。展示だけでなく、フェスを開き、見に来た方に直接説明する時間も設けた。地域外の方にも見ていただくことができた。		地域外の方からも羽沢の歴史を感じる場所や自然があらわれる魅力について気付いてもらうことができた。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

繰り返し地域に散策に行き、地域の魅力を自分たちで探すだけでなく、地域の人とたくさん出会う機会を設け、様々な立場から地域の魅力を知ることができるようにした。

さらに、学校、スポーツ会館、横浜国立大学地域連携施設YNU BASE HAZAWAの3か所で写真展を開催し、学校関係者以外の地域の方、地域外の方などたくさんの方に写真を見てもらい、アンケートに答えていただくことができた。地域に支えられていることや地域の魅力を再発見する機会となった。

(2) 実施にあたり苦労した点

羽沢の地域全域に写真を撮りに行くため、様々な施設との連絡、子どもの安全管理が大変だった。保護者ボランティアを募ったり、地域の方に早めに連絡を取ったりした。

また、写真の展示場所の確保にも苦労した。地域外の人に見てもらうためには、駅に貼れたら一番良かったのだが、展示には多額の費用が掛かると言われ、難しさを感じた。最近できた商業施設に横浜国立大学の地域連携施設ができたため、大学とのコラボ店として活用させていただいたが、人通りの少ない場所なので、もう少し多くの人に見てもらえる場所に展示出来たらよかったとおもう。

(3) 児童の反応

地域の方に羽沢の魅力や写真の撮り方を教えていただき、地域の良さが伝わる写真が撮れたと感じていた。それを、開催した写真展のアンケート結果から、「羽沢に住んでいるが、新たな魅力を知ることができた。」「羽沢にはまだ魅力がたくさんあるから、自分も探して歩くのが楽しみなった。」などと、魅力が伝わったことが実感でき、達成感を得ることができた。写真展開催にあたり、いただいた費用をもとに、学校の印刷機ではなく写真プリントに出せたため、画質のよい写真を展示することができたこともとても喜んでいて。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

初めは、地域との連携、場所の交渉など、不安がとても大きかったが、プロの方に写真の撮り方を教えてもらいながら、上達していく様子を見て、より良い写真展にしたいという気持ちが高まった。また、子どもと一緒に地域の魅力を探る中で、勤務する学区の中にこんなにも素敵な場所があることを私自身再発見することができ、開発が進んで便利になっていく姿も良いが、羽沢のまちの昔から残る史跡や畑などの魅力を大切にしたいと感じた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

児童は、今回の経験から、羽沢の地域の良さを十分に味わうことができた。また、関わった方々の支えにも気付くことができ、郷土愛が芽生えていることが感じられる。しかし、その支えに返していこうという気持ちにはまだ達していない児童も多い。地域に支えられて写真展を開催できたことをもう一度確認し、今後も地域のために自分たちにできることを考えていこうとする気持ちをもって卒業に向かってほしい。